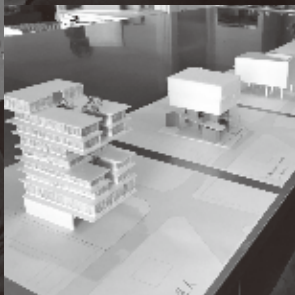
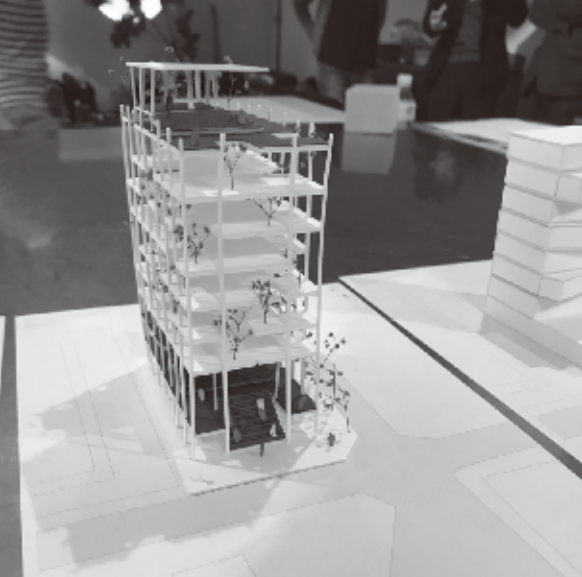


第 21 回

JIA 九州 建築 塾

2020.01.31【金】 - 02.02【日】

in Fukuoka



第 21 回 JIA 九州建築塾 in Fukuoka

【主催】公益社団法人日本建築家協会九州支部

【担当】JIA 九州支部福岡地域会

【講師】塾長 末光弘和（株式会社 SUEP 代表）

講師 福田哲也（アーキタンツ福岡代表）

智原聖治（智原聖治アトリエ代表）

【会場】フェアバンクス（福岡市中央区春吉 1-11-36-9F）

【日程】2020 年 1 月 31 日（金）- 2 月 2 日（日）

【塾生】15 名（内 3 名が留学生）



早春の福岡市で第21回 JIA 九州建築塾を開催いたしました。主宰者を代表して関係者の皆様には厚く御礼申し上げます。ご多忙のなか塾長を務めていただきました末光弘和様、誠にありがとうございました。また、サブ講師の福田哲也会員と智原聖治会員も準備期間より大変お疲れ様でした。

JIA 九州建築塾は今回で21回目を迎えました。当初はJIA 会員事務所スタッフ育成のためのプログラムでしたが、近年では九州支部内の各地域会が持ち回りで担当することで、地域とのつながりや地域ならではのテーマを持った催しとなっております。

今回は福岡地域会の担当により「環境をつくる」というテーマで行われました。時代のキーワードとなってます「環境」という言葉は、自分たちの回りにある状況・状態から、気候・風土やさらに大きな意味へと広がりをもっています。建築は常にこの「環境」と向き合って何らかの回答を見つけ出す行為といえます。私たちはいくつものレイヤーの「環境」への思考を重ね、その「場」の持つポテンシャルを最大あるいは最良にすることが求められます。さらにはその建築ができることで新たな「環境」が作り出されます。このテーマに留学生を含めた16人の若者が挑戦しました。塾生にとって既知の地域や仕事場・学校とは違った緊張と葛藤そして達成感に満ちた「環境」のなかで過ごした3日間であったと思います。この経験と交流が今後の建築人生の糧になることを願っています。

最後に佐々木寿久地域会長をはじめご尽力いただきました福岡地域会の皆様、地域を越えてサポーター参加していただきました九州支部会員の皆様、ありがとうございました。今回の建築塾は福岡地域会例会と九州支部地域交流会も併せた新しい形で、福岡の地域性の表れた良き試みでした。このように地域や時代に合わせ建築塾が引き継がれ、各地域会活動の活性化と、九州支部の結束に繋がっていきますことを願っております。

今後とも公益社団法人日本建築家協会九州支部の活動にご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。



公益社団法人日本建築家協会
九州支部長 川津悠嗣



公益社団法人日本建築家協会
福岡地域会長 佐々木寿久

第21回 JIA 九州支部主催・九州建築塾が福岡地域会にて開催されました。開催にあたって九州支部の皆様、各地域会の皆様には格別のご尽力を賜り厚く御礼申し上げます。また、今回の塾に参加頂いた塾生の皆様、大変お疲れ様でした。皆様にとってこの経験が建築という社会で良い財産になって頂ければと強く思います。今回講師を引き受けて頂きました、末光弘和会員・福田哲也会員・智原聖治会員には多忙なところ大変お世話になりました。

今回のテーマ【環境をつくる】とは、建築を計画する際、周りの環境を考える事の再認識と思い講師の方々と考えました。もちろん皆さんも日頃そう考え取り組んでいるはずですが、この塾を通していろんな建築家（講師の皆様）の考えを聞き、自分の意見と照らし合わせる。そんな機会になったと思います。

建築は設備・熱処理・空調など建築単体で考える環境と周りに影響を与える環境、そして周りから受ける環境に分けられると私は思っています。環境を考えることは、とても難しいことですが、肌で感じることから知識で解決することまで、幅広いことだと思います。

この数年で、福岡市は天神の再開発・博多駅の再開発・ウォーターフロントの再検討と大きく町が変化していきます。150万人をこえるこの街が環境に配慮しながら再構築していくのを見られるのは、私にとって楽しみであり、また、見慣れた景色が無くなるのが寂しくも感じます。

塾では塾生同士のコミュニケーション、ディスカッションも見られ、楽しいなムードもありました。しかし皆さんの真剣な取り組みは、緊張感もあり感心させられました。実際の建築現場を見に行き周りの環境を読み取る、そして夜遅くまでワーキングを行い、模型やCG制作と限られた時間でミッションを進める。それは自分の中でスケジュールを管理していかなければ到達できません。このことは日頃の仕事にも良い影響を与えてくれるはずです。

今回、再開発が進む福岡市で建築塾を開催することができ、また環境をテーマに考えられたことは何より良かったと思います。重ねて協力頂いた九州支部、九州支部各地域会の皆様にお礼を申し上げます。ありがとうございました。

■スケジュール

1 日目

受付 開講式 概略説明

松岡恭子氏（スピングラスアーキテツ）講演会

懇親会

2 日目

現地調査（今泉公園）

末光氏を囲んで座談会

個人発表 1 回目 その後作成作業

3 日目

作成作業

個人発表 2 回目 講評

閉講式、解散



■講師プロフィール

塾長 末光 弘和（九州大学大学院 准教授、株式会社 SUEP 共同主宰）

1976 愛媛県松山市生まれ
1999 東京大学建築学科卒業
2001 東京大学大学院修士課程修了
2001-2006 伊東豊雄建築設計事務所
2007- SUEP
2011- 株式会社 SUEP 代表取締役
2020- 九州大学大学院 准教授



受賞歴：第 18 回芦原義信賞、第 27 回吉岡賞、2018 年度グッドデザイン賞金賞、2015 年 JIA 環境建築賞優秀賞、
平成 30 年度日本風工学会デザイン賞、平成 21 年住宅建築賞、第 8 回環境・設備デザイン賞最優秀賞、
第 19 回・第 23 回福岡県美しいまちづくり建築賞大賞他多数

九州建築塾は、JIA 九州主催による短期間の建築ワークショップである。長い歴史を持つこのイベントは、これまで九州の多くの建築家を育成してきた。本年は、「環境をつくる」というテーマのもと、社会人・学生・海外からの留学生など、建築家の卵ともいべき若者が九州全域から参加して一泊二日の合宿形式で行われた。

現在、福岡市では、天神の中心部で航空法による建物の高さ規制緩和による「天神ビックバン」と呼ばれる高層化プロジェクトが動いている。一般的に、これらのビックプロジェクトは、経済原理主義で動いており、人のスケールが不在の開発となりがちであり、地元の建築家たちもほとんど関与できずにその経緯を眺めている。我々建築家たちの問題意識は、天神地区が担ってきた、屋台文化などに代表される界索性や人を中心とした文化が損なわれないかという危惧であり、我々の職能が発揮されるのは、このビックバンエリアの周縁にある多様なエリアをいかにデザインしていくことかということであるということであった。

課題の対象となった今泉地区は、かつてラブホテルやパチンコ店など裏天神としての特徴を担ってきた場所であるが、近年は天神から薬院方面に向かって飲食店やブテックなどが増えており、若い人たちの行き交う場所に変貌してきているエリアである。敷地は、その今泉地区の中心となる今泉公園（通称三角公園）に面しており、これまで公園に面した建物が、公園に背を向けて建てられてきたのに対して、今後の変貌を踏まえ、公園と一体的なホテルのデザイン、公園との関係のデザインなどの含めた広義での環境のデザインを求められた。

最終成果物に関しては、短期間の設計であったため、当初企画側に求めていたほどの成果に至っているものは多くなかったものの、2日間の間に、これからの九州の建築や、アジアの一部としての福岡の生活や文化あり方、それを踏まえた環境デザインについて、多くの議論が行われたことは成果だったと思われる。特に、教える側と教えられる側という垣根をなくし、皆で円状に囲ってフラットに議論し、更に、立ち寄った九州の建築家たちも交えてのディスカッションは、これからの九州の建築文化の種となってくれるのではないかと考えている。

講師 福田哲也（アーキタンツ福岡代表）

1968	大分県生まれ
1987	久留米大学附設高等学校卒業
1992	芝浦工業大学建築工学科卒業
1994	芝浦工業大学大学院建設工学科専攻修了 建築工房アルティ・ザン設立 代表
2001	株式会社アーキタンツ一級建築士事務所 共同設立 管理建築士
2001	アーキタンツ福岡一級建築士事務所 設立 代表
2015	株式会社アーキタンツ福岡一級建築士事務所 設立 代表取締役



今回初めて講師として建築塾に参加しました。「環境をつくる」というメインテーマと、ホテルという機能、福岡、今泉公園並びという地域性、周辺環境をどのように読み解いて、願わくは、若者らしいハツラツとした案を期待しつつ、塾当日をむかえました。塾生の皆さんは、タイトなスケジュールの中、現地調査、中間発表、講師交えての丸座での意見交換、最終発表と、3日間熱心に課題に向き合い、その姿はこれからの建築を担っていく若者として頼もしくも思えました。

作品全体としては、プレゼン技術の高い人も多く、短い時間ではありましたが上手にまとめた人が多かったように思います。しかし短時間である事もあり、「環境をつくる」というメインテーマに対し、しっかりした提案をできたかと考えると物足りなさも感じました。その中で、Rayan 氏の案は、スーダン出身のバックボーンからくる、外部環境（特に日射）を脅威としてとらえた中でそれをデザインに変換する立面形状は興味を引きました。（福岡で必要かは別として）また、笠間氏の案は、最小ユニット（個室）のみ人工的環境を確保して、それ以外を外部環境にゆだねる現代的アジア発想で、空白という彼女の設定がもっと都市の空白に、時間の空白に、コミュニケーションの空白に等展開していくと新しい概念が生まれて面白い空間ができるような気がしました。

塾生皆さん、課題と取り組みながら、末光氏や九州の建築家と交流し、同世代の建築仲間と意見交換が出来る有意義な時間を過ごせたと思います。これからも建築を愛し、九州の建築を盛り上げる大きな力になってください。

講師 智原聖治（智原聖治アトリエ代表）

1974	福岡県生まれ
1999	熊本大学大学院工学研究科建築学専攻修士課程修了 香山壽夫建築研究所
2011	智原聖治アトリエ 設立
2016	株式会社 智原聖治アトリエ 一級建築士事務所に改組
2018	熊本大学非常勤講師



今回で21回目を迎えたJIA九州建築塾に講師として初めて参加させていただいた。建築塾は「塾」という性質上、私的な（公ではない）教育の場であり、学生にとっては大学、スタッフにとっては設計事務所以外で建築に向き合う機会を与えられた場である。

参加者16名の内、学生は9名、社会人7名で世代も近く、立場は違えどもこれからの将来を担う人材が集まった。学生の場合、大学の課題ではアイデアやプレゼンスキルが長けている方が評価が高い。スタッフの場合は、日々実務に追われ昼夜なく仕事に必要なスキルを磨き、ボスからは当然のごとくバランスの取れた者ほど評価が高くなる。建築塾では皆同じ土俵に上がり立場は関係なく課題に取り組むことで、自らの建築に対する姿勢を再認識できる。

課題は「環境」というこれからの建築にとっての必ず考えなければならない最重要テーマであった。「環境」という問いに対する回答はひとつではない。様々な切り口によって多種多様である。今回、課題作成期間が約2日というスケジュールにも関わらず、皆それぞれのスタディ方法やプレゼンツールの活用等これまでに培った能力をフルに発揮し「環境」に対する一つの回答を示してくれたと思う。しかし、苦言をいうのであれば案としてもう少し突き抜けたものがあればよかったと思う。建築塾は、ガチガチな実務レベルの提案を求めるものでなく、かといって実現不可能なアイデアのみでもない。建築を楽しみ、面白いと思うような、建築を目指した時の最初の気持ちを再び思い起こし、それを案にぶつけられる場だと思う。

今回、建築塾に参加した塾生は、これからの建築人生において様々なハードルを越えていかなければならない。この建築塾というハードな経験を通して、これからも建築に向き合ってほしいと思う。

■テーマ「環境をつくる」

建築家は常に新しい環境を作ってきました。環境とは様々な意味あいをもつ非常に多様な解釈を作ることができる言葉です。生活環境やビジネス環境、自分を取り巻く環境という使われ方から、環境問題などで注目される、緑化や風の流れなどの自然エネルギーに関係するキーワードとしての「環境」まで、さまざまな意味が込められています。持続可能な世界の実現に向けて、次世代の建築を担う皆さんは考えを深めていかなければなりません。

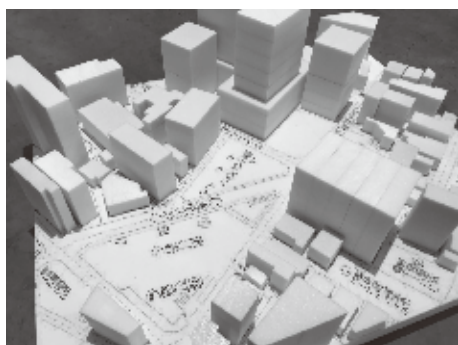
奇しくも2度目の東京五輪の開催を控え、高度成長期に建てられた建築物の寿命の問題や、建て替え、改修が差し迫った課題となっています。このような時代、「建築を作ること」自体が環境に大きな影響を与える事を理解し、私たちは次世代の建築を考えていかなければなりません。この建築塾を通してテーマをさらに深める事を期待しています。

課題

- 設定された敷地に、宿泊施設を併設した建築を考える。
- 計画に際しては以下の点に留意する必要がある。
- その他の計画概要は自由に考えてよい。

- 1、敷地北側の今泉公園との連携を図る事。(出題テーマを解釈して検討する。)
- 2、福岡市の現状をとらえた計画とする事。(天神ビッグバンなど福岡市の現状を調査する。)
- 3、経済的にも地球環境的にも配慮された計画である事。

計画地：福岡県福岡市中央区今泉1丁目2-16



■第21回 塾生

丸野大樹 (トラス・アーキテクト(株))

山内将暉 (日本文理大学)

板井 臨 (日本文理大学)

森 純輝 (長崎総合科学大学)

大原正義 (長崎総合科学大学)

橋本悠希 (株)INTERMEDIA)

笠間美帆 (株)松山設計室)

吉田郁乃 (株)松山設計室)

竹内彩乃 (アトリエサンカクスケール(株))

藤井捷伍 (株)和田設計)

楠元唯人 (九州産業大学)

永友裕子 (近畿大学大学院)

Rayan Faried Saadaldien Labeb (北九州市立大学大学院)

Treza Chandra Julian (北九州市立大学大学院)

Andina Syafrina (北九州市立大学大学院)

土持末聖 (株)ごとう計画 設計)

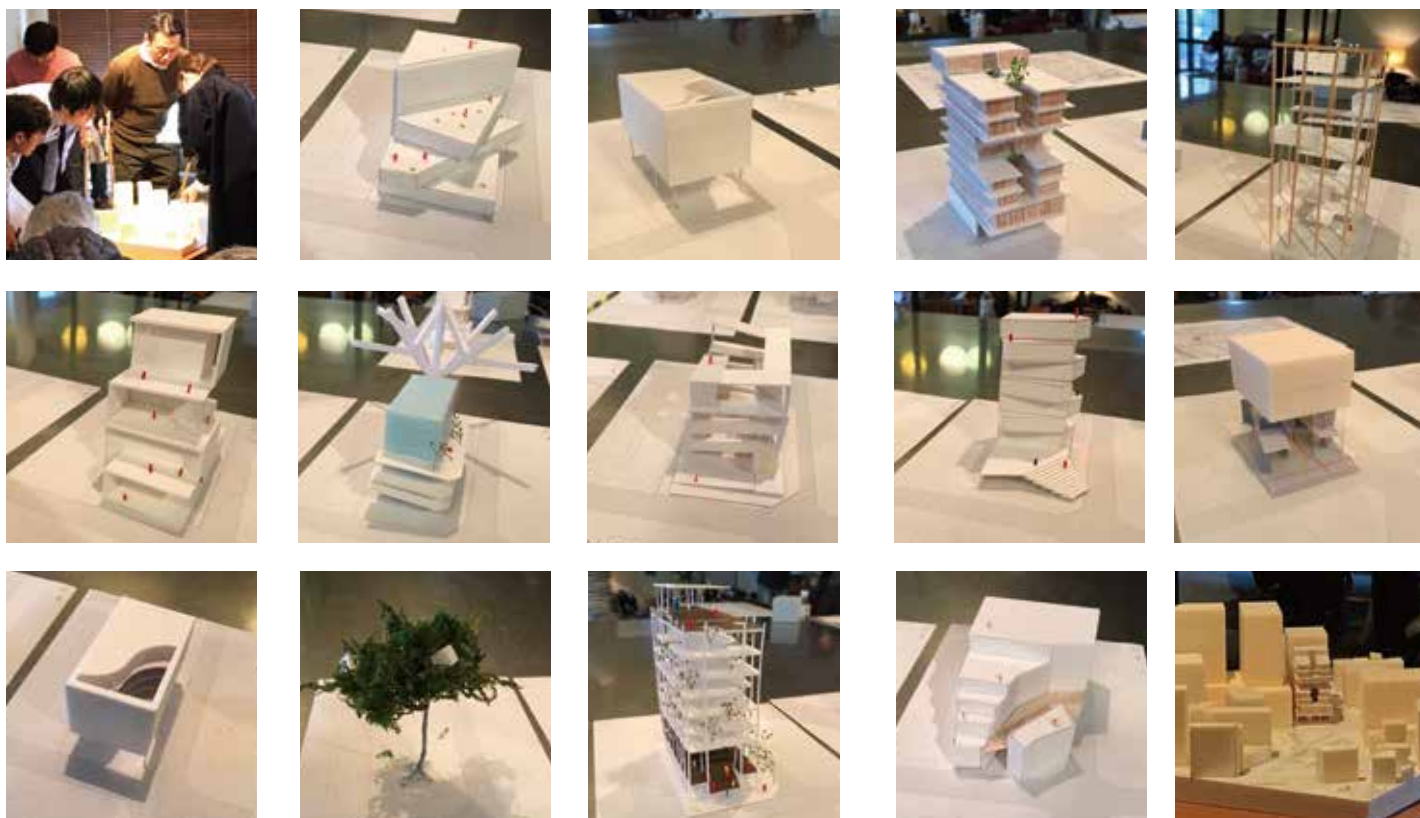
(順不同)



■プレゼンテーション・課題製作の様子



■プレゼン用模型





trezachandra@gmail.com

Treza Chandra Julian The University of Kitakyushu

Treza was born in Bandung, Indonesia, in 1995. He received the B.Arch.Ed from the Indonesia University of Education in 2017. He is currently receiving a scholarship from the Japanese Government (Monbukagakusho/MEXT) from 2018 and in 2020 he is in the second year of his Master's Degree in Architectural studies at Fukuda Lab, Dept.of Architecture, The University of Kitakyushu. For his research, he wanted to understand the possibility that soft and low, dense wood such as Albisia wood (Indonesian local wood) can be transformed into stronger and useful wood which can be used as a construction material.

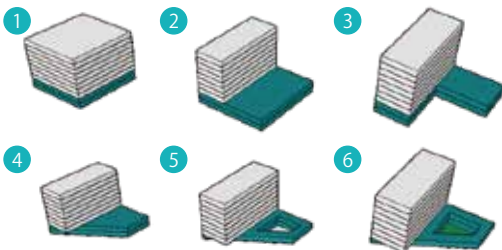


RE-TENJIN

Re-branding Tenjin as the icon of Fukuoka City & Kyushu Island



/Massing



/View



The building mass consists of 6 steps. 1 and 2 Floors are used for the exhibition hall, lobby and mini bus stop. While 3-10 Floors are used as hotels for tourists.

/Concept



Current Condition

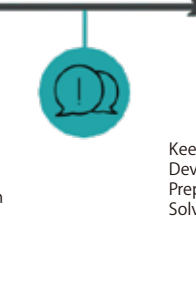
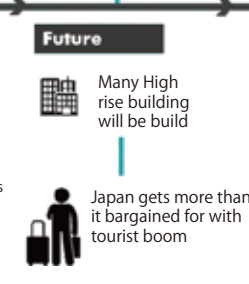
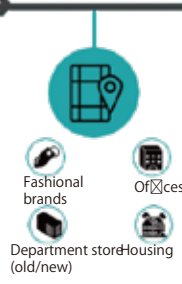


LOST IDENTITY
Problem



RE-BRANDING
TENJIN

Keep in mind history
Develop a current condition
Prepare for the future
Solve the problem



/Mini Bus Stop

/TENJIN HISTORICAL GALLERY on the 1 and 2 floor



Representative Tenjin as the icon of Fukuoka City and Kyushu Island



Attracting tourist to come



Make tourist aware that there is an Imaizumi Park inside Tenjin Area



Tenjin road conditions are bad



Comfortable bicycle and pedestrian paths



Scooter share

/Imaizumi Park



Comfortable bicycle and pedestrian paths



Scooter share





RAYAN LABEB

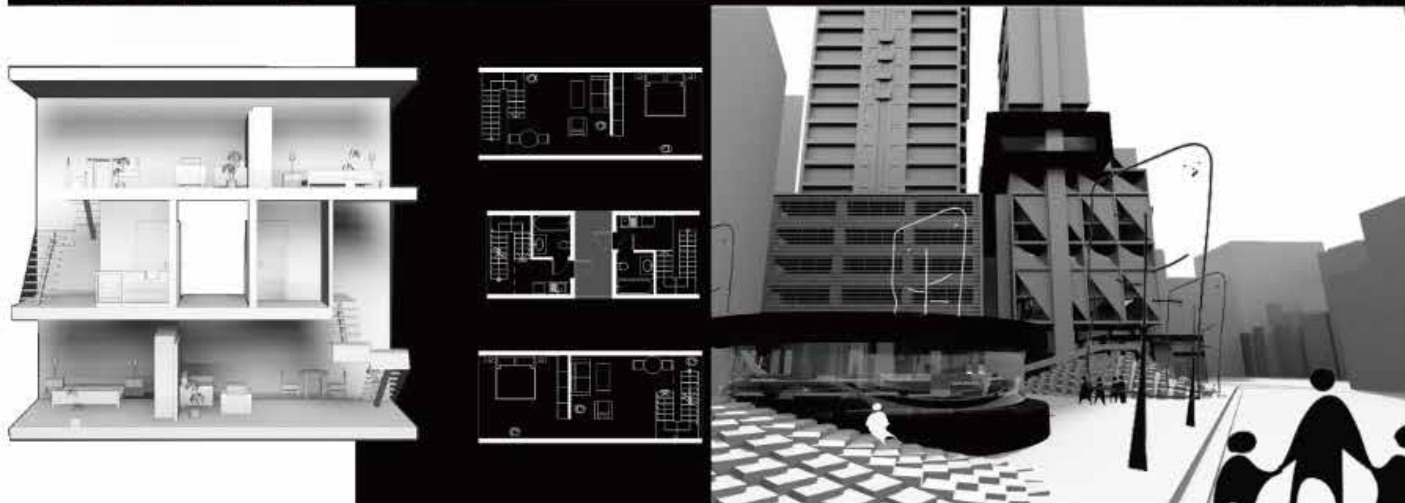
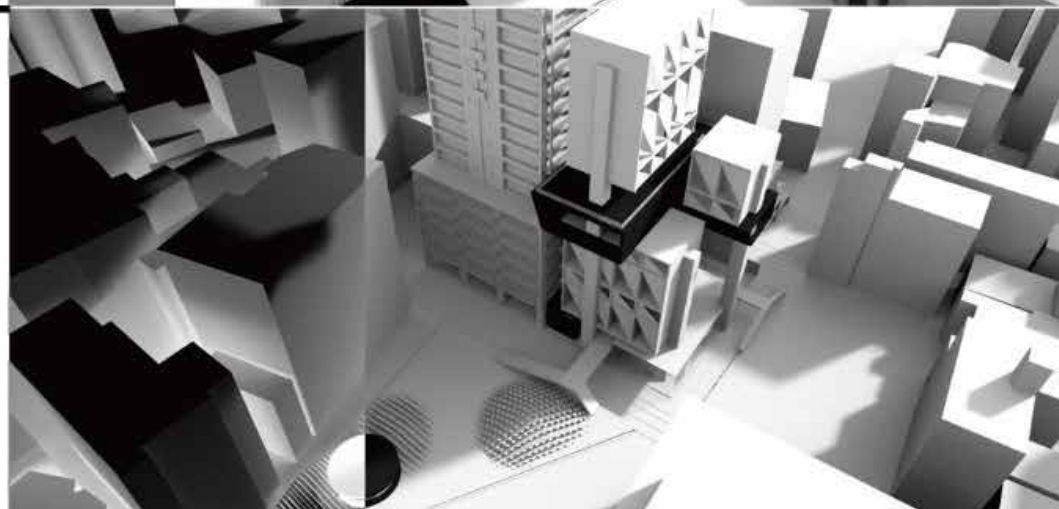
THE UNIVERSITY OF KITAKYUSHU
MASTER STUDENT

Born in March 31st 1991, Graduated from architecture school on 2011 at Future university Sudan, practiced architecture for 8 years between Sudan and Saudi Arabia.

Concept : Key word in the design process of the art hotel and box park is connectivity, a building that connects with its environment through scenery and connects the three pillars surrounding the Tenjin area (Art + Transit + Nature).

A modular structure for the hotel with each room consisting of two floors and two different views one facing outwards toward imaizumi park and one inwards towards the building itself, the upper floors of the living volume are rotated to face towards the river.

the box park offers a reactive environment that blends comfort and intrigue, while you can sit and enjoy the coffee or the view of either the urban layout or the nearby parks.





Andina Syafrina
The University of Kitakyushu
Student Exchange
Research Program 2019

I am graduated from Polytechnic Pontianak in 2010 (diploma architecture degree) and Tanjungpura University in 2016 (bachelor architecture degree). In 2017 i continued my Master in Architecture at Bandung Institute of Technology (ITB). In 2019 I am the exchange student in Fukuda Laboratory Dept. of Architecture University of Kitakyushu for 6 month (August 2019 - March 2020). I am doing the research about the evaporative cooling in urban area for graduate my master in architecture.

Email: andina.syafrina@gmail.com

Website: <https://asyafrina.wixsite.com/deenakarya>

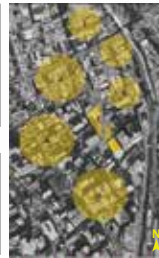


Old Imaizumi Area

In the past, the area was known as a residential district, chic boutiques and clothing stores. Another thing that is in the Imaizumi area is famous for the street stalls, known as 'yatai', that line its streets at night.

Around The Site

Location is in the Tenjin, Fukuoka. Currently around the site are the center of business and entertainment, where the level of visitor traffic is quite high and allows a high level of hotel occupancy.



1. High road
2. Asooka large station
3. Shopping center
4. Residential, hotel and small shop
5. Pedestrian path
6. Office and shop

Future

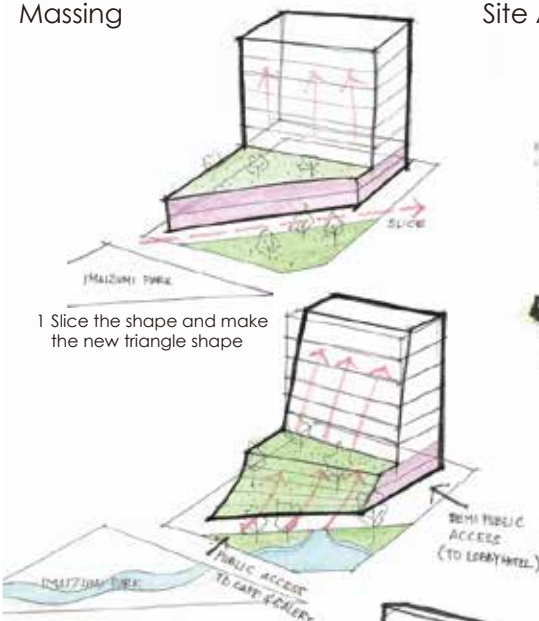


Complement and Re-present Tenjin



Massing

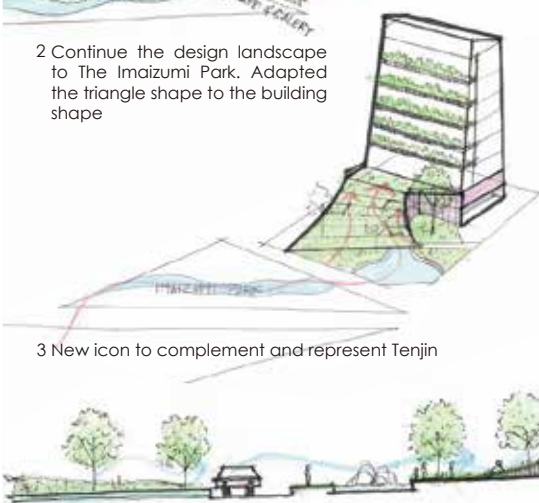
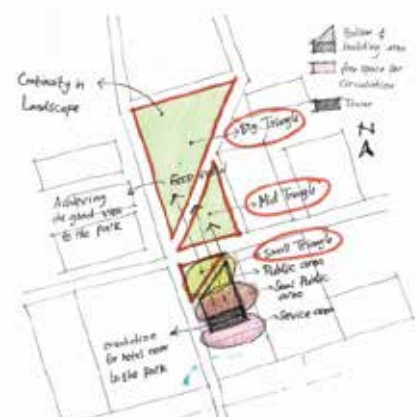
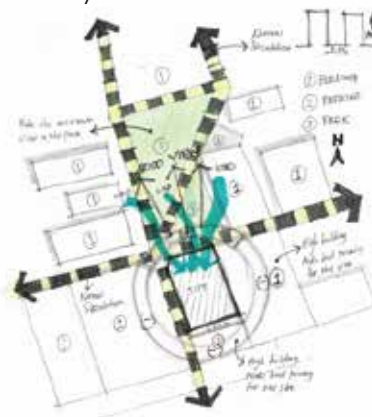
Site Analysis



1 Slice the shape and make the new triangle shape

2 Continue the design landscape to The Imaizumi Park. Adapted the triangle shape to the building shape

3 New icon to complement and represent Tenjin



The 21st Japan Institute of Architecture (JIA) School in Hakata, 2020



笠間美帆
Miho Kasama

1995.07.12 生まれ

福岡県大牟田市出身

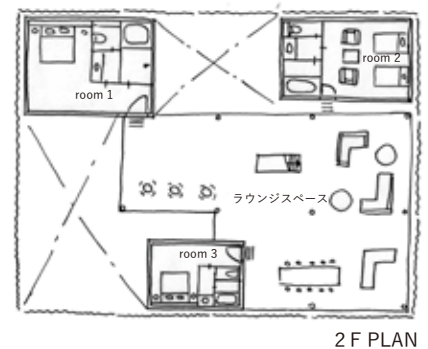
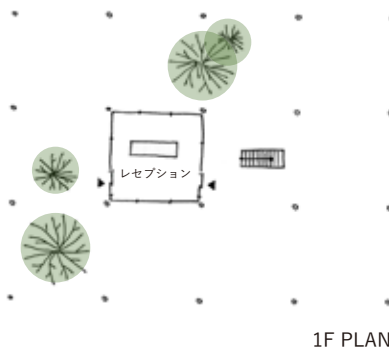
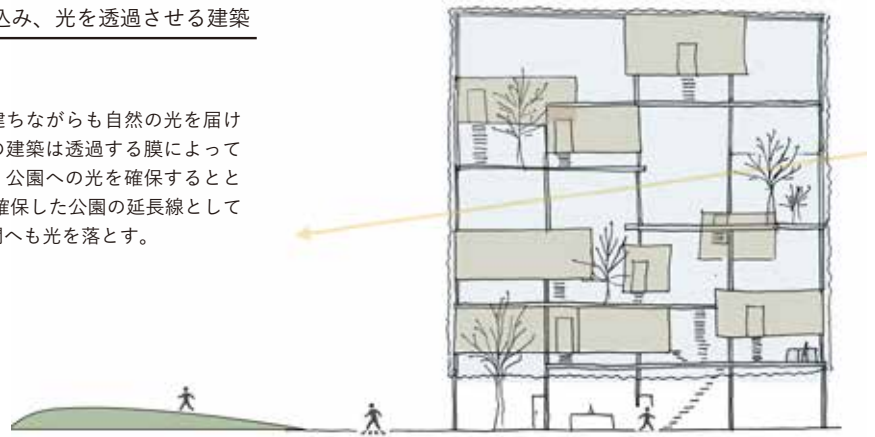
2018 静岡文化芸術大学
デザイン学部空間造形学科卒業

2018 松山建築設計室所属

麺類と甘いものが好きです
時間があると映画を観ます

空白を引き込み、光を透過させる建築

公園の南側に建ちながらも自然の光を届けるために、この建築は透過する膜によって覆われている。公園への光を確保するとともに、1Fに確保した公園の延長線としてのピロティ空間へも光を落とす。



■再開発エリアの周辺に位置する計画地



『天神ビックバン』という大規模な再開発が行われるエリアの付近であり、西鉄福岡（天神）駅、薬院駅からも徒歩圏内に位置する計画地。福岡の街中は徒歩でも移動可能なコンパクトな街である。

■今泉公園と警固公園との違い



西鉄天神駅の隣にある警固公園は買い物客の休憩場のような滞在の場としての機能を果たしている。



警固公園の様子。



今泉公園周辺。多様な移動手段が交差する。



歩道から公園をみる。わずかな段差と車道により体感的な壁を感じる。

幹線道路から枝分かれした道路が囲まれており、細い道路であるが交通量は多い。また公園の形状が三角であるため、3方からのアクセスがあれば囲まれてしまう。

【警固公園との比較】

警固公園のような滞在性のある公園にはなりにくい。だが、交通量のある3方に囲まれることによって

空白の空間

としてのポテンシャルが生まれているのではないか。

concept

■空白の空間を求める周辺の建物



方位は関係なく、公園に向かって立ち並ぶ周辺の建物。

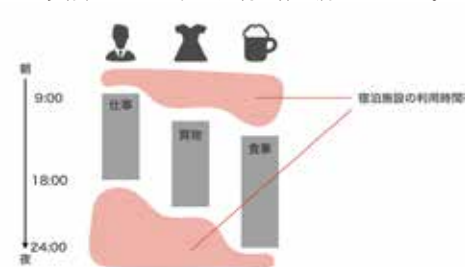
周辺の建物を見てみると、飲食店や小売店舗は客のアクセスに向けて公園側へ開く。またマンションも、採光を得るために南側へ向くことなく、公園へ向かって建っている。公園が持つ空白というポテンシャルによって開放性や自然環境を得ている。



■公園の空白をひきこむ



隣接する公園を敷地内で引き込むように、1Fをピロティ空間として解放する。その空白が上層へも広がるように、宿泊スペースの水まわりや寝床はコンパクトに納め、ラウンジやリビングのような多様性のある空間で建物全体を満たしていく。



多様な目的を持つ人が、宿泊という行為をはさむことでまた別の目的も持つことができる。例えば、仕事が終わったから仲間と飲みに行こう！時間が空いたから買い物したいな！といったように。

この新しい宿泊施設に引き込む空白は時間や場面によって使い方を変えることができる。ラウンジが居酒屋に変わったり、ポップアップの店舗になったりと多目的性を生む空間がこの空白である。



吉田 郁乃
Yoshida Ikuno

■経歴

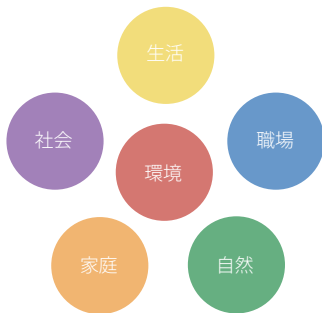
1995 6月15日生(24)
2018 西日本工業大学
デザイン学部 建築学科 卒業
2018 松山建築設計室 入社

■好きなもの

写真、料理、ディズニー、動物、手芸
映画、洋服、音楽、漫画、お絵かき



■環境とは？



「環境をつくる」という漠然としたテーマを読み解くにあたって
環境がつく言葉をつくつて思い浮かべてみた
生活環境、社会環境、職場環境、家庭環境、自然環境、
環境とは様々な意味を持っていて、非常に難しいテーマであった

■福岡には高級ホテルがないことや受験やイベント時の宿不足が大きな問題となっている。「天神ビッグバン」で旧大名小学校跡地に高級ホテルで有名な「ザ・リッツ・カールトン ホテル」の建設が決定するなど、福岡のホテル業界に変化が訪れている。この今泉でどのような宿泊施設を建設するか考えた際に、場所を読み解くことから始めた。今泉は天神に歩いて行けるほどのアクセスの良さがありながら、天神ほど観光客の賑わいはなく敷地の周辺は集合住宅が立ち並び、観光客より市民の方が多い印象だ。一方で、カフェやセレクトショップが多いため、おしゃれに敏感な若者が訪れる場所でもある。この土地に似合う宿泊施設は若者向けに、且つ宿泊は睡眠だけを目的とし、併設した施設を充実させることを考えた結果、1人向けにカプセル、複数人向けにドミトリーを組み込んだ宿泊施設を提案する。

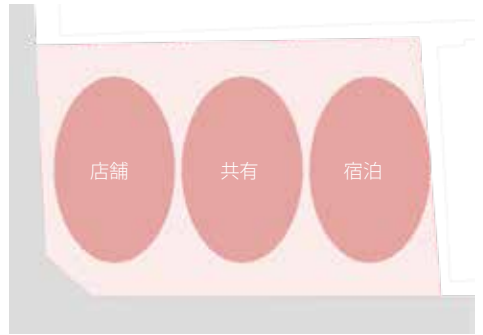
■「環境」のつく言葉で一番に思いついたものは「自然環境」で、この最初の着想から木造にしたいと考えていた。次に着目したのは「職場環境」で、現在「天神ビッグバン」で高層のオフィスビルの建設計画が行われているが、一方でオフィスを持たない会社が増えてきている。オフィスがなくてもインターネットとパソコンさえあれば世界中どこでも仕事ができる時代になり、働き方はどんどん進化している。そこで新たに街を形成する上で、今まで通りの働き方を想定したプログラムで建築を計画していいのだろうかという疑問を持った。そのため「コワーキングスペース」というものが流行り、需要がある。しかし、コワーキングスペースの利用者は、いわゆるソーシャルワーカーが主な印象があり、あまり市民に根付いているものではないが、市民がもっと利用できないだろうか。図書館では静かにしなければならない、勉強お断りのカフェが増えてきている中、学校や自宅以外で勉強したい学生や、主婦ブロガーやハンドメイド作家として活躍する主婦は子育てから少し離れて作業したいのではないだろうか。

■カフェ感覚で気軽に訪れて、カフェの奥の空間にはコワーキングスペースが広がっていて、勉強で遅くになればそのまま宿泊のできるような、利用者を固定せず曖昧にした施設の提案である。





1. 敷地の周辺は中高層の建物が建ち囲われながらも角地に位置し全面道路の向かいには公園があり目につく場所



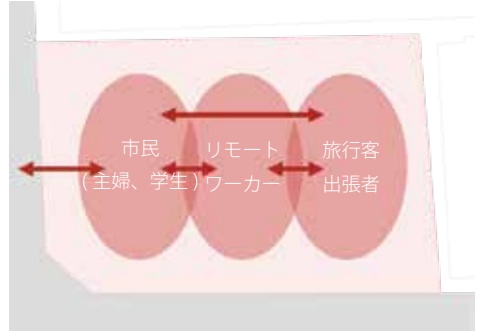
2. 目にとまりやすい公園側から店舗、共有スペース、宿泊施設の順番に配置する



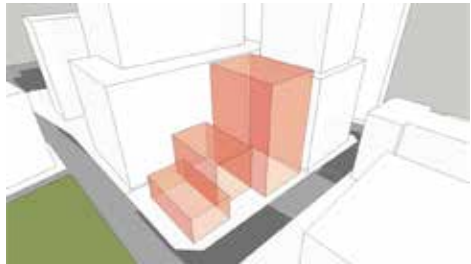
3. 具体的な用途のイメージ
カフェは時にイベントスペースとなる



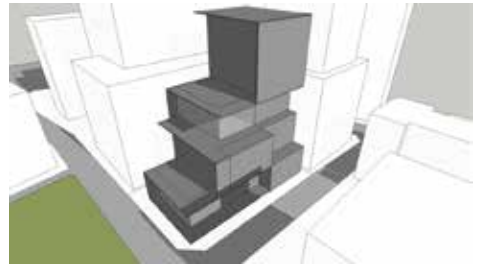
4. 利用者のイメージ①
それぞれの用途から利用者を想像する



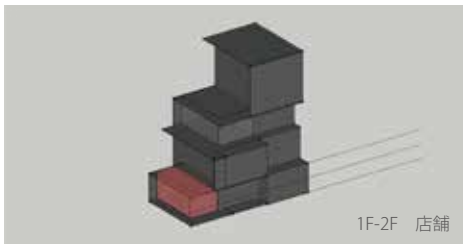
5. 利用者のイメージ②
利用者が施設全体を利用できるように計画する



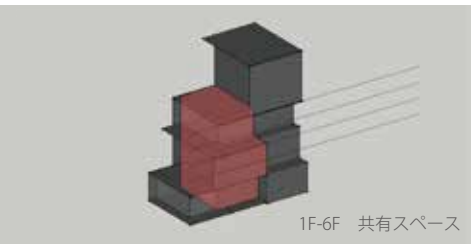
最初に考えた形のイメージは公園側にある店舗スペースが低層で徐々に高くなっていき、且一つの塊ではなく幾つかの箱に動きをつけながら組み合わせることを考えた



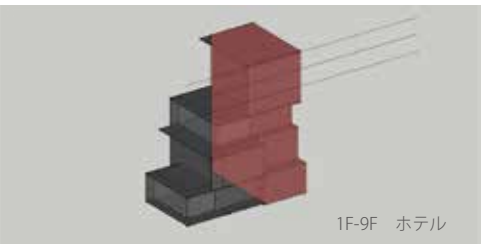
前方にある公園と周辺の中高層の建物の間に構える建物として圧迫感を与えないよう、公園側からと駐車場側からの見え方を意識してファサードを検討した



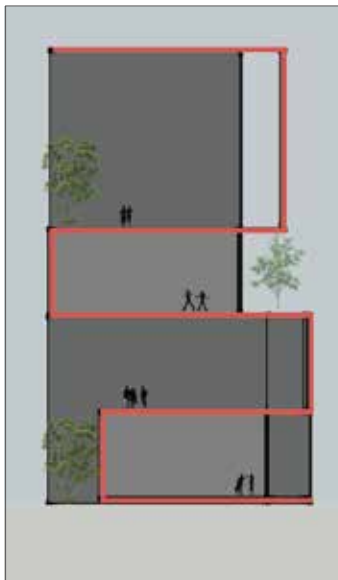
1F-2F 店舗



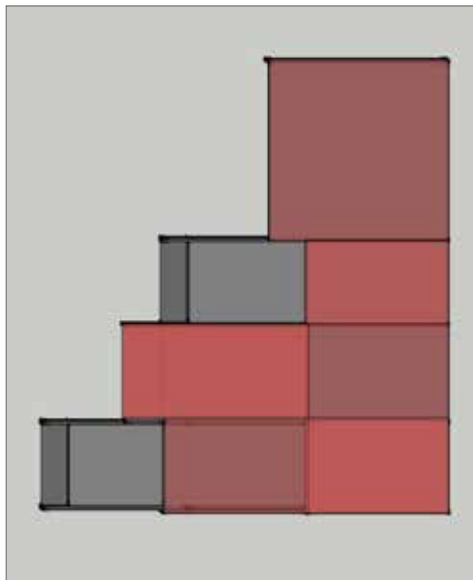
1F-6F 共有スペース



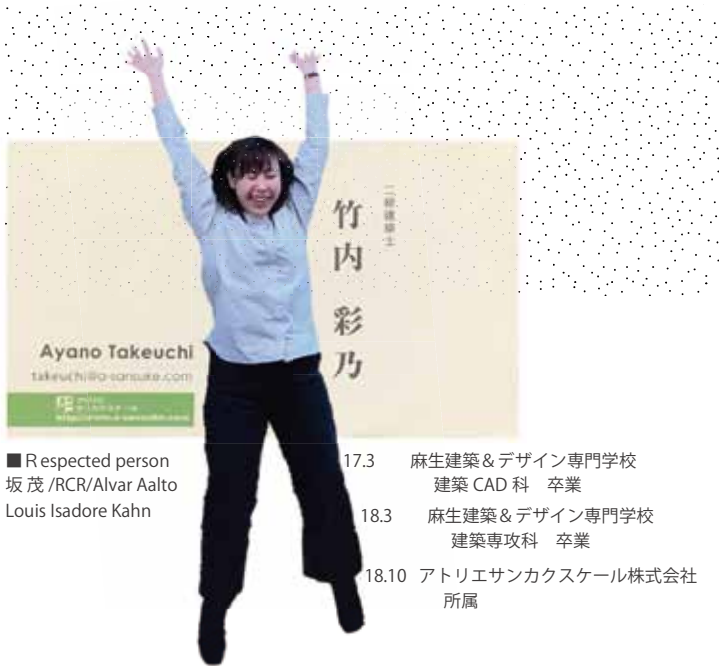
1F-9F ホテル



公園側を開く計画にしたかったため壁や、スラブを持ち出すことで建物を線で見せるように意識した
スラブを持ち出すことで、屋内にも屋外にもできる新たな空間ができた

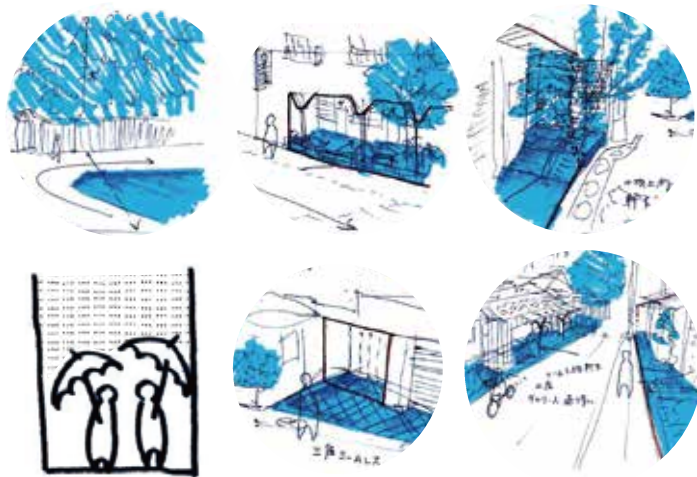


駐車場側からは閉じつつも圧迫感を与えないように小さな面を出したり引いたりするようなイメージで決めた



■ Respected person
坂 茂 /RCR/Alvar Aalto
Louis Isadore Kahn

17.3 麻生建築&デザイン専門学校
建築 CAD 科 卒業
18.3 麻生建築&デザイン専門学校
建築専攻科 卒業
18.10 アトリエサンカスケール株式会社
所属



■おさきにどうぞスペース

「傘かじげ」…狭い路地などで互いの傘がぶつからないように自分の傘を外側に避ける仕草のこと。相手に対する配慮がしぐさに出る、奥ゆかしくうつくしい行為。
今泉の路地はふしぎと圧迫感を感じないのは人が通る意識を地域がつくっていたからかもしれない。日常のオアシスと宿泊の非日常性を対比させ新たに中間領域発生させる。

■クリーニング→衣類→リネン

生地は生活には欠かせないもので、人間が人間であることの証にもなっている。
私たちは健康であり続けるために生地の洗濯（クリーニング）をでも怠ることはない。
この根本的な思想の原点である“健康”の象徴としてリネンを活用する。
今まで見えなかった商業と一般住民のロジカルな橋渡し役となり、新しい価値を生み出していく。



■コンセプト

今泉が浮かぶ場所

（宿泊施設 × クリーニングから考える未来）

福岡・天神地区では訪日客の伸びが著しく、近年「宿泊難」対策もあり大手や地場産業は過去最大のホテル開業ラッシュの波に乗っている。数年の間に現状の20%の割合で増え続けるこれらは観光都市としての福岡・天神を支える柱となるべく今日も開発が進んでいる。

今回の計画地である今泉もまた開発が進む一方で、細い路地が囲む地域一帯は外の空気とは明らかに一線を引いており一種の生態系のような複雑な関係性をつくっていた。色街として住宅地として飲食や商店の町として朝晩季節ごとに細かく人々が行き交うこの場所の要素を結びつける、そんな建築があればもっとこの今泉の魅力を引き出せるのではないかと私は考えた。

ラブホテル、保育園、銭湯といったそれぞれ異業種でありながらも日用に関わる仕事が多く、かつ清潔な環境が求められるそれぞれの世界。

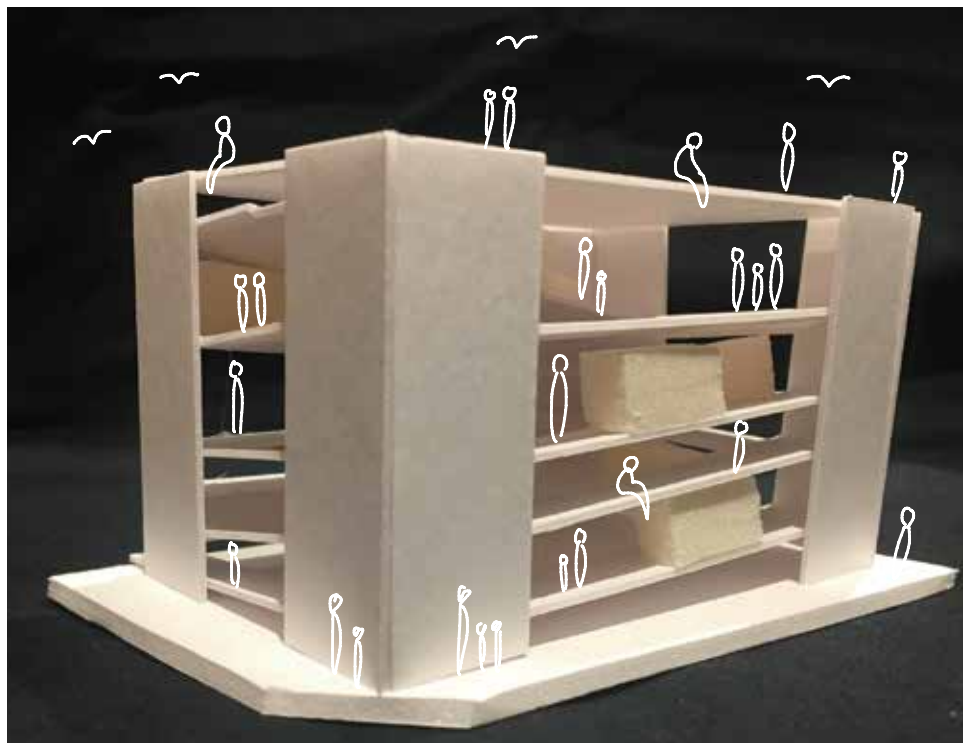
これらをクリーニングのフィルターを通して次の場所（福岡・天神）へ飛ばす発信装置としての役割をこの設計に落とし込みたいと思う。

さらに言えば、今泉から海を越えて、地域を促すのは商業・一般に関わらず絶えずミニマムに動き続けるロジカルな働きであると伝えられたらと思う。

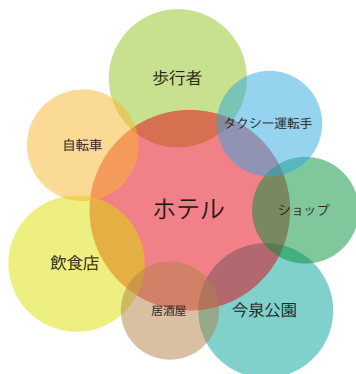
～ 少しだけ立ち止まっていかな～



橋本 悠希
株式会社 INTERMEDIA
1993・9・17
長崎県長崎市生まれ
創成館高校 デザイン科 卒業
九州産業大学 工学部 建築学科 卒業
趣味：ドライブ
最近 24 時間営業のジムへ入会しました

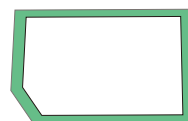


concept 「泊まる人だけではなく泊まらない人も止まれる場所」

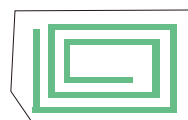


天神と薬院の通過点となっている今泉
多くの人が徒歩や自転車で行き来を
している。今泉にはオシャレな飲食店や
オシャレなショップ、居酒屋、などが
ある。今回宿泊施設を計画するにあた
り通過点となっている今泉に立ち止
まってもらえるような施設を作る。

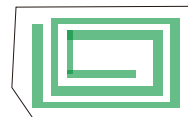
alley 今泉を歩いていると路地を多く見かけた。
細い路地に魅力がある中で車や自転車が多く歩行者が危ない



通路を設け車が来ても避けることができる
人が自然と敷地の中に入ってくる

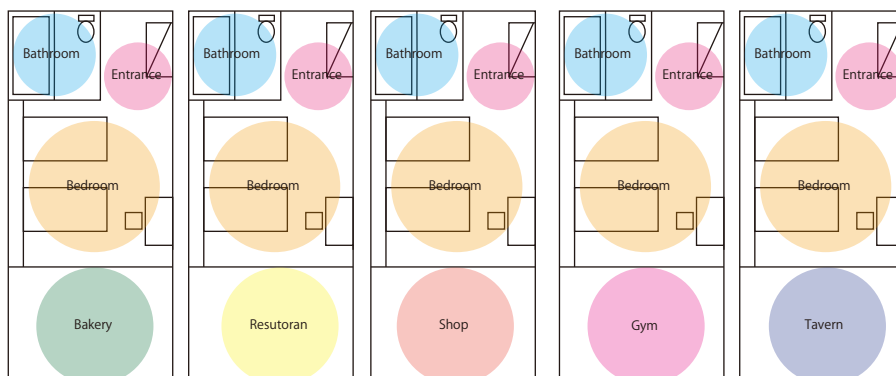
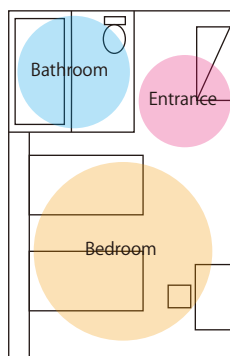


通路を螺旋状に配置しながら敷地の中に
路地を作っていく



路地の幅を変えることにより通路だけの場
所ができたり溜まる場所ができる

plan



一般的なホテルは 1 階に受付がありチェックイン、
チェックアウトの時間があります。ホテルでは寝る
ことが主となっています、最近では宿泊する人のみ
が楽しめる娯楽もあります。

しかしこのホテルは受付などなく自由に部屋を使うことができます。パンを食べたり主婦同士で
のランチ、今泉公園でウォーミングアップしてジムへ、天神で呑み足らなければ居酒屋なども。
ゆっくりとランチを楽しめたり、運動後の休息、呑み過ぎたら宿泊も可能。
今泉のに沢山あるお店が日替わりで入ります。



山内 将暉

日本運理大学

工学部 建築学科

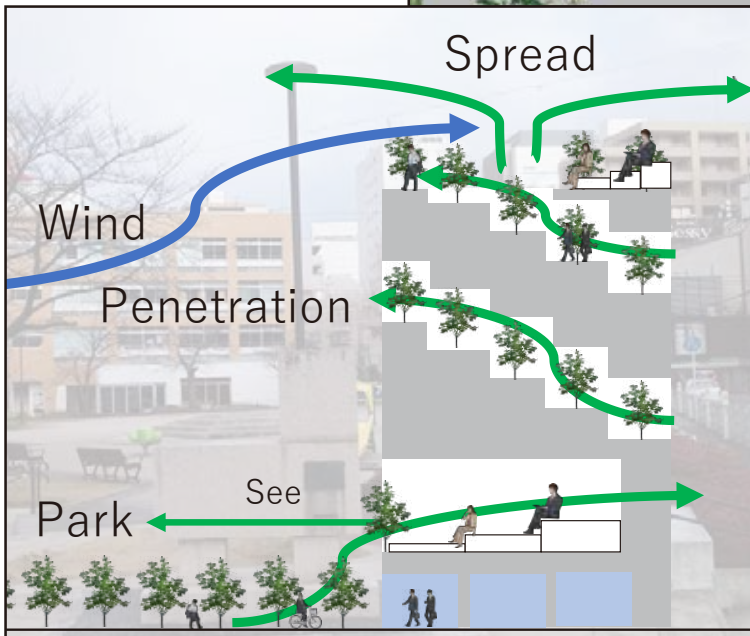
建築設計コース B3

1999/1/29 兎年 AB型

趣味 サバイバルゲーム

ギター 旅行 テニス

好きな建築家 堀部安嗣



未来に配慮した未来環境

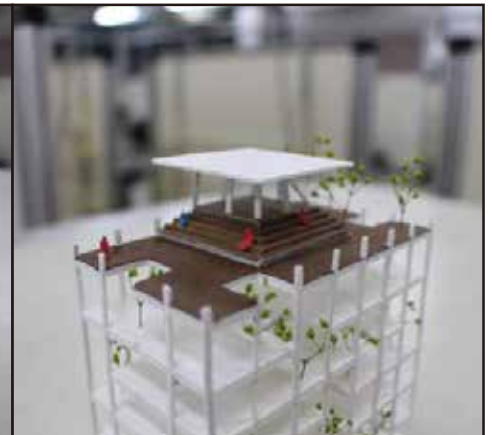
私はウォーターフロント、セントラルパーク、博多コネクテッド、天神ビックバン構想から見える福岡市全体の都市的变化を踏まえそれに考慮したコンセプトで設計をした。敷地である天神ビックバンで行われる高さ制限や延べ面積の緩和は現在の福岡市の形を変えさせ他の地域にあるような高層ビルがただ建ち並ぶだけの一边倒な都市になりえない。成長する都市の本来持っている特徴を踏まえ未来に配慮した未来環境を提案する。



公園と建築をつなぐ大階段 (1F インフォメーション 2.3 カフェ)
大きく開いた大階段は公園に対して様々なイベントと連動することを想定している。お祭りや映画祭、幼稚園のご遊戯会などでも利用できる。建築内のイベントだけではなく地域の場として利用することで福岡らしい都市に開いた建築となる。



自然を伝達する建築の隙間 (4~6F オフィス 7~9F ホテル)
天神ビックバン構想の中で明治通りの提案はご近所付き合いのあるオフィスという提案だった。そして建築に隙間を設け植栽を植えることで借景と他のオフィスビルとの連続性を出している。全体が緑で覆われることを想定して建築の中に組み込んでいく。



公園を見渡す階段の展望台 (9F 展望台)

この敷地を見ると風の流れは他の建築の影響で地表は緩やかに高くなっていくと風の流れがよくなっていることが分かった。そのことから屋上では地表では味わえない風を楽しんでもらおうと考えた。屋上緑化も行い気温が上がらないようにしている。



Profile

藤井 捷伍 H.10.3.30

出身校：麻生建築デザイン専門学校
建築学科

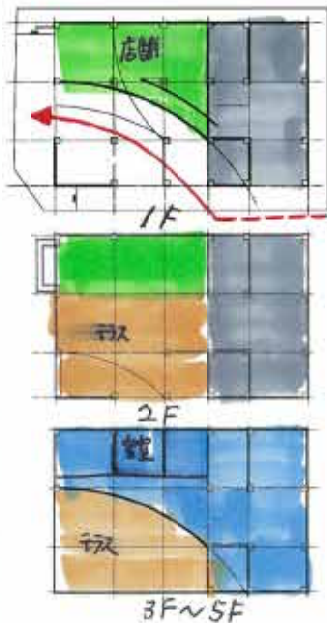
好きな食べ物：こんぶ



～広場と街を繋ぐ～



今回の計画地を見て回ったり調査したところ、人の通り道、抜け道になっているなど感じました。やはり天神と薬院の間ということもあり、人の流れは多い。そして、路地を進むと住宅が立ち並び少々奥まった雰囲気を出している。栄えている街で周囲を囲まれているためかその様な印象を強く受けました。計画のコンセプトとしてはこの雰囲気をうまく生かし通りすがりの人がふと足を止め、自然になかへ入っていくような「公園」と「街」と一体化した建物を目指しました。公園とは何かと考えたとき、「誰もが自由にかつ快適に過ごすことの出来る場所」で昼休みに公園でお昼を食べたり、ベンチでお気に入りの本を読んだり。若しくはなにかイベントを行ったり、人と人の交流・繋がりを生む場所ではないかと考えました。



1階部分は通り抜けが可能で吹き抜けとし開放的な道を作りました。人通りが多いので幅を広くしています。

1階店舗の中に入り階段かEVで2階へ上がり2階はパブリックスペースとして自由に使えるコワーキングスペースと広いテラスデッキを設けています。このテラスデッキは上階にも設けており、今泉公園や今泉の町並みを眺められます。3階からは宿泊施設の客室となっております。

また将来性を見込んで構造躯体はスケルトンインフィルとし、100年耐久出来かつ間取りを自由に変更できるように計画しています。



今泉公園でイベントを起こし、それを眺められるようにする。

今泉公園の周囲の建物は公園側を向いているので、ヨーロッパの広場みたいだとおもった。視線を自然に向けられるようにすれば一体感が生まれるのではと考えます。



土持 未聖

(株)ごとう計画・設計

宮崎県

平成 9 年 11 月 12 日生 (22)

趣味: スポーツ観戦・音楽鑑賞



環境をつくる

広辞苑によると "環境" とは

人類が諸々の活動をしていくにあたって、調和のとれた社会を形成していくための課題。とあり、今まで「植栽を植えよう!」「エコバックを持って買い物しよう!」といった自然環境や地球環境、家族、友人、上司、同僚と生活する場である家庭環境、教育環境、職場環境などといった"環境"のことを考えていた私が広辞苑をきっかけに考えた"環境"は「ネコ環境」。

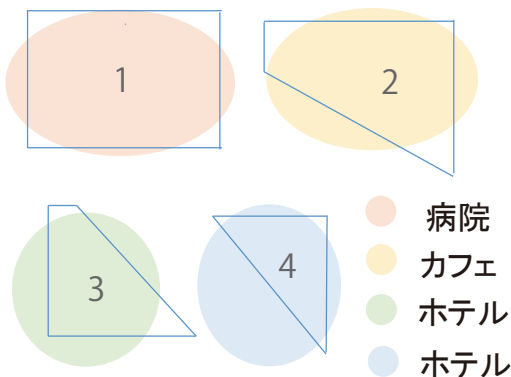


これは、現在空前の猫ブームを迎えている日本にとって大きな問題であり、特に福岡市では、野良猫の数が推定10万匹と言われ、年間約500匹のも猫が殺処分され、6000匹もの猫が路上で死亡し回収されているというデータがあります。

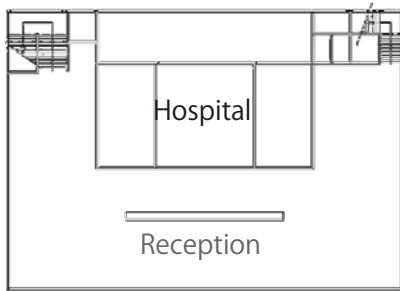
無責任に野良猫に餌をあげるひとがいたりすることで増えなくてもいい猫が増えているのが現状です。そんな福岡市では"地域猫活動"という取り組みが行われており、私が今回その活動の一環として考えた宿泊施設が「猫ホテル」。

天神ビックバンでのオフィスの増加に伴い、県外からの移住者や出張者が増えること、また、福岡空港からの海外観光客の増加が予想されます。

"人が増やした人"と"人が増やした猫"が共存できる施設を考えました。



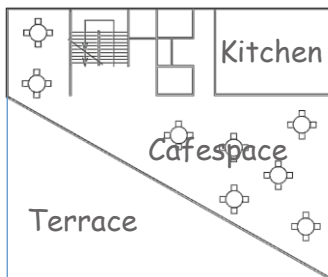
敷地の北側にある今泉公園は地元の方に、**サンカク公園**という愛称で親しまれていることから建物の形状を三角形を基準に計画しました。



1. 病院

保護された猫がまずここで治療を受けます。
他にも、飼い猫の調子が悪いときなど、
街の猫用の動物病院のような役割をもたせます。

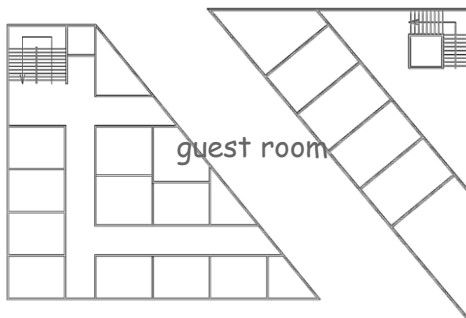
ホテルのフロント機能のここで行います。



2. カフェ

近所の方や観光客へ手軽に癒しを提供できる空間に。
また、保護猫が人馴れできるよう場所に！

テラスには猫草を植え、
猫の体調を整えるとともに
今泉公園の緑とのつながりを持たせました。



3・4. ホテル

人間にとってもお気に入りの部屋や、
居心地の良い空間があるように猫それぞれが
お気に入りの部屋にいつでも出入りできるよう
つくりたいと考えています。

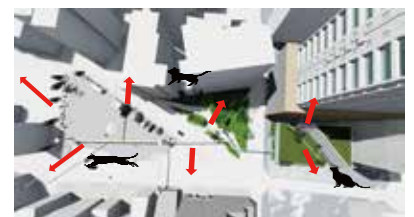
例えば各部屋のドアに猫用の扉を設けたり、
人間用の水まわりだけでなく、猫用の水まわりを
各室に設けます。



公園へ訪れる猫が車の通りが多いこの地
域で安全に移動できるよう、福岡の都市高
速をイメージし、上空4メートルの位置に猫
の通路を作ります。

野良猫が保護され、病院で治療を受け、ネコカフェで人馴れをし、
体も心も健康になった猫が自由に移動ができる通路"猫の橋"を設置。
今泉公園へだけでなく近隣の建物へ出入りできるようになれば
どこにいても猫の様子を観察することができます。

地域全体で見守ることができれば新しい地域猫活動の取り組みになり、
"上空を歩く猫がいる街"ということで天神駅から薬院駅の間に人を呼び込む新しい観光スポット
になるのではないのでしょうか。





大原 正義

長崎総合科学大学

工学部 工学科

建築学コース 3年

平成10年7月21日生

かに座 O型

趣味 映画鑑賞 寺巡り

特技 バスケットボール



環境をつくる～憩いの環境～

天神ビッグバンや博多コネクティッド。様々な政策により急激な成長期を迎えている福岡市。これから多くの企業誘致や観光客の大幅な増加などとても喜ばしいことである。しかし、人が集まるにつれて人々が一息つけるような憩いを得られる空間が少なくなっていくのではないかと考えた。そこで、建物や人が集まっている場所でも一息つけるような建物を提案する。

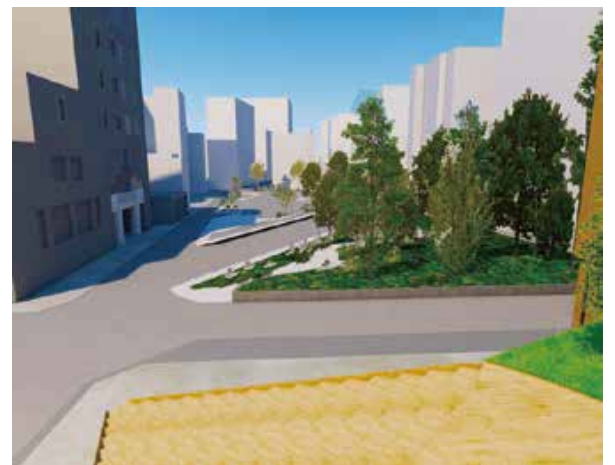
緑化

屋上や二階のオープンスペース
各階ごとのずれにより生まれる空間を緑化し、地球環境にも配慮している。

オープンスペース

の位置

一階の歩道に面した階段を上ると広く開放感のあるスペースがあり、カフェで買ったドリンクを飲みながら心地よく過ごせる。



初期案

- 問題点
- ・隣接したビルとの陰になる場所にオープンスペース
 - ・1階部分の工夫
 - ・開口の工夫

最終案

改善点

- ・1階部分の特徴的なデザインの外壁
- ・交差点側にオープンスペース
- ・開口のデザイン



オープンスペースの位置

一階の歩道に面した階段を上ると広く開放感のあるオープンスペースを設けた。この場所でカフェで購入したドリンクやデザート食べながら心地よく過ごすことができる。



一階壁面デザイン

一階の歩道に面する外壁には縦のルーバーを波打たせるようなデザインにした。歩行者の目線から見てたとえ遠くから見ても興味を惹かれるようなデザインにした。内部はカフェの席になっており外に視線を通す事もできながら、プライベートな空間も確保している。





板井 臨

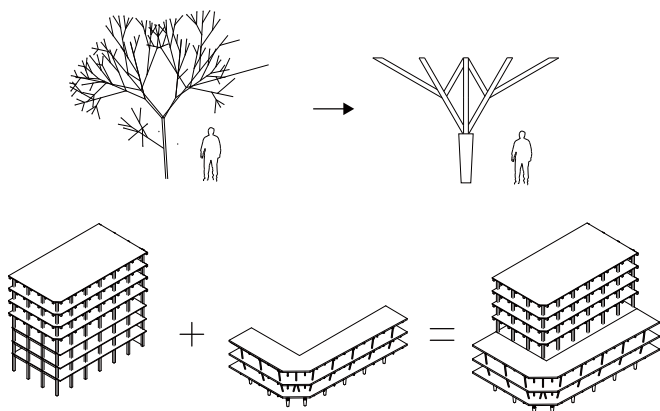
RIN ITAI

日本文理大学

大分県臼杵市出身で、好きな食べ物は唐揚げ。設計事務所を営む父があり、建築の道へ進む。特に構造部門に興味があり、構造系の研究室に所属している。



・ダイアグラム



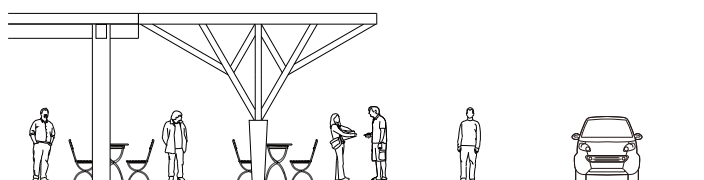
「植物のような建築」

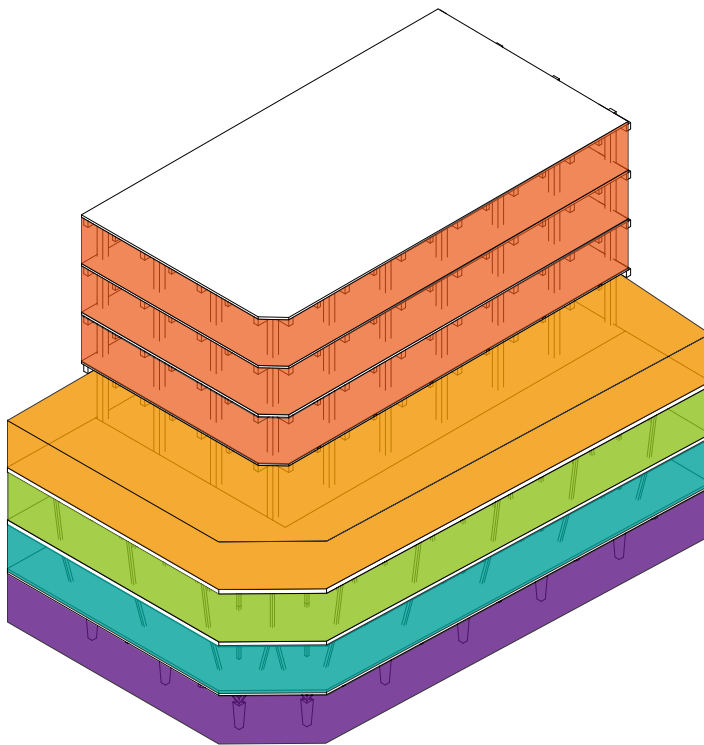
建築とは植物のようなものである、と私は考えています。人間という水が循環し、更新されていく。それぞれが他の建築の邪魔をしないように育ち、地域独特の発達をします。このことをより感じられる建築を作ることが「環境をつくる」というテーマに繋がるのではないかと考えました。そこで私は、植物を思わせるような構造体を用い、かつ植栽を施した建物を提案します。

今回は、建物の足回りについて考えました。解放感を演出するため、公開空地の歩道を取り入れています。

昼は構造体が木陰の様な空間を作り上げ、人を寄り付きやすくさせています。

夜は照明で構造体を照らし出すことで、やや暗めな周りの環境を明るくさせています。





	ホテル
	キャンプ場
	ジム
	コワーキングスペース
	カフェ

・課題に対して

①今泉公園との繋がり

- 緑の繋がり
- 視線の繋がり

②福岡市現状をとらえた計画

- 日常的な利用と非日常な利用を考えた施設

③経済的、環境的な配慮

- 木材を用いる
- 風のデータを参考にした抜け

・建築としての提案

- 構造が力学的な機能以外で建築にかかわる

・今回できなかったこと

- 具体的な宿泊施設との繋がり



森 純輝

長崎総合科学大学3年
工学部 建築学コース
長崎県長崎市出身
好きなこと バドミントン
ドライブ



コンセプト

周りに自然がないことから「自然環境をつくる」

- ・天神ビックバンでの高層化からの癒しの場所
- ・福岡市の政策の緑化計画の中心となれる
- ・公園にも役割を与える

自然環境の中では「森」の環境

森の中にあっても馴染むもの「ツリーハウス」

公園と敷地を森のような空間にし公園の敷地に左のようなキャンピング空間を設ける

大木をデッキや吊り橋で繋ぐ



キャンピング施設

静岡県にある「IN THE PARK」のようなテントを設ける
宿泊施設をキャンプとして屋外宿泊施設のような空間としました。



球体のテント

宿泊用テントとして設け右のようにテントを設けるのではなく床全体をクッションのようにし宿泊できるようにしたいです。



施設へのアプローチ

大きな木にデッキや木の階段などを設けて木の中にある球体の宿泊施設への道を作り、建築物というよりは自然と触れ合えるものになりたいと考えました。

森のような空間

自然の空間の中の森の空間を設け緑に癒される空間を公園の空間に設けたいです。

キャンピング空間

ツリーハウスの下には球体の施設でなくともテントを設け泊まる事ができる。





楠元 唯人

2000/01/30

九州産業大学

芸術学部

生活環境デザイン学科

空間演出デザイン専攻

趣味 映画 絵を描く



環境をつくる

私は、竹に囲まれた宿泊施設をデザインしました。竹を利用することで、他の木を枯らしてしまうなど問題のある竹害を減らす事ができ、森林伐採も減らせる。

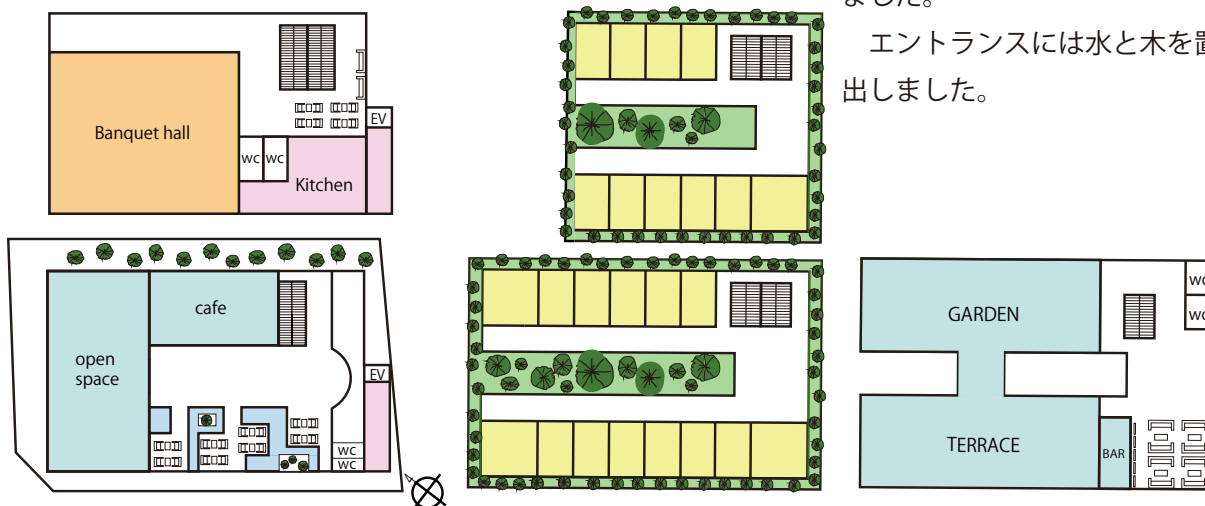
竹は、木と比較すると酸素排出量 35%、二酸化炭素吸収量は、40%上回るため、地球にも優しいと思い使用しました。

床の竹と竹の間には隙間を作り、風を感じられるようにしました。

和のカフェを併設し外国人観光客に喜んでもらえる和を感じれる宿泊施設にしました。

オープンスペースを作り、散歩されている方や、他のお店から買ってきたものを持ち寄り、会話が生まれるようなコミュニティの場を作りました。

エントランスには水と木を置き、非日常を演出しました。





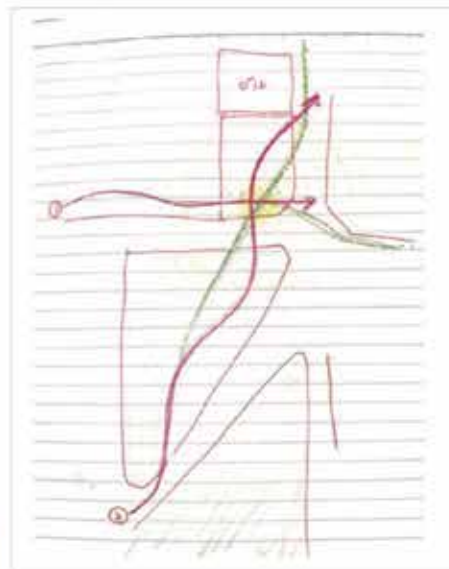
永友 裕子 (24)
nagatomo yuko

近畿大学大学院
産業理工学部
M2 卒業見込み
アートレ建築空間
就職予定

○バース



○diagram



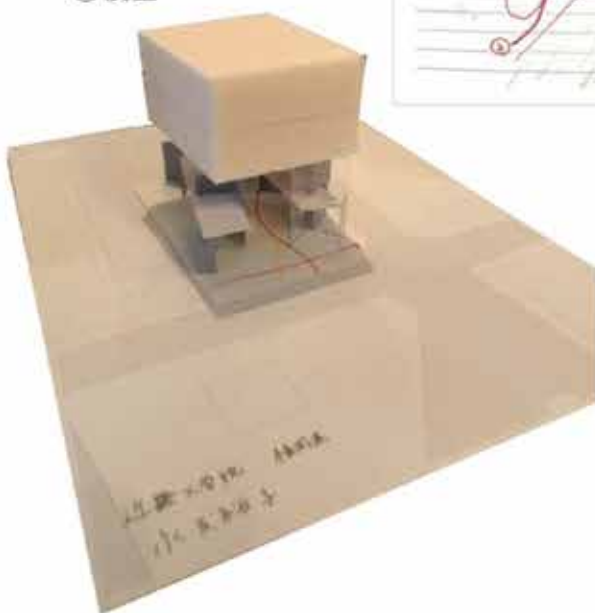
○コンセプト

「通り」

- ・周辺環境の活性化を目的に、「通り」に着目した。
- ・周辺の花壇を整備して、導線がスムーズに入ってこれるようにした。

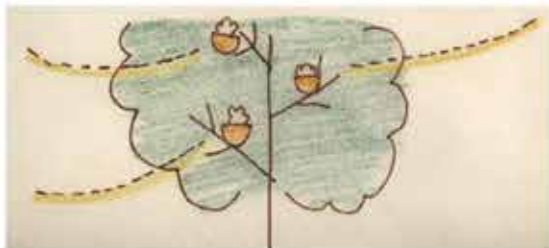
- ・宿泊施設の機能などの課題が残った。

○模型



○コンセプト

「部屋のないホテル」



鳥が、気ままに木に巣を作るような感覚で泊まれる宿泊施設

・天神ピックアップにより、福岡らしさが消えてしまうことを危惧する。そこで、福岡の屋台のような、「**アジアらしい建築**」を提案する。

・周辺環境の活性化を目的に、周辺の「**通り**」と、ホテル1～3階までの導線をスムーズにする。

○バース（概念図）

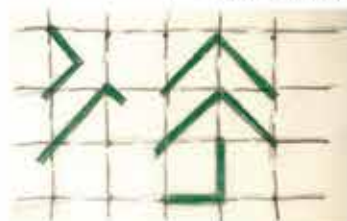


し字型躯体

○平面図



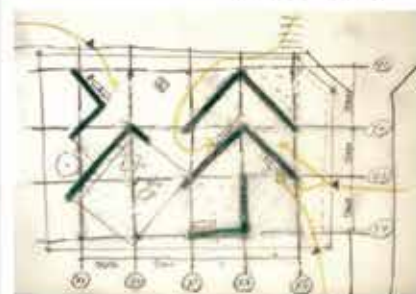
4～6階平面図



3階平面図



2階平面図



1階平面図

・1～3階は、10メートルの大空間。その大空間には、し字型の躯体が挿入されている。その躯体の上に、21m×28m×10mのボリュームが重なる。

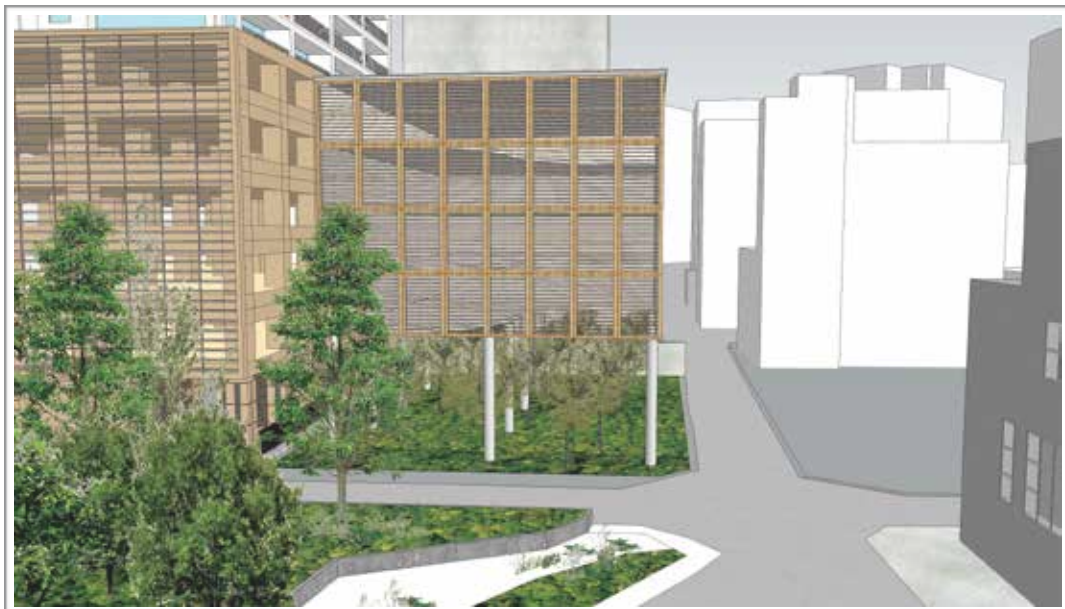
・1～3階まではそこに来た人たちが、気ままに泊まれる空間。友達と、旅行の計画を立てたり、今泉周辺にいる人たちが、この空間に自分の巣を作るように、カスタマイズしながら利用する。

・4～6階は、予約者専用。フロアごとに貸し出し。部屋はないので、自分たちで机や椅子を動かして、いごごちの良い巣を作る。



丸野 大樹
MARUNO DAIKI

トラス・アーキテクト(株)
鹿児島県鹿児島市
H09.09.03(22)
乙女座 O型



■コンセプト

【公園のための建築】

天神地区からひとつ抜けたこの場所にある公園は、寂しさを持っていた。周りを中層の建物やホテル、ショップが並ぶ中この公園は、ぽっかりと空いている。今回の建築は、公園の延長先となるように公園の緑・植物をそのまま建物へ取り込んでいく。人々は緑に連れられ建物へ迷い込む。多くの人が訪れ建物は人と植物と共に成長する。森のような樹々に囲まれる建築とする

■環境について考える

【環境とは】

天神ビッグバンによる容積率や高さ制限の緩和により天神地区の建物は高層化・高密度化していく。建物の高さの揃った現在の景観が大きく変わる。それは成長であるとともに日々の息苦しさが大きくなるのではないかと考える。天神地区と薬院の「間」に位置するこの場所で一息つけるような一瞬が生まれるように



■公園に宿泊する

【1階・2階】

樹々に囲まれた森の中のような空間でワークショップなどを行う。また公園への宿泊者の受付・フロントを兼ねる

【3～6階】

各階アウトドアブランドのテナントフロアとする。公園に宿泊する方が実際にテントなどキャンプ用品を使用することが出来る

■デザイン

【ピロティ】

1・2階をピロティとする。約7mの開放的な公園の延長線上のような空間。公園の緑から同じ樹のスケールで視線を誘導する、街で歩き一休みしたい人、上階のテナントを訪れる人、など様々な人がこの場所で交わることが出来る

【木製ルーバー】

公園に面する前面には、木製のルーバーを設ける。県産の木材でデザインする。可動式とし時間・気温・季節によって可動させる。日差し、視線をコントロールする

【吹抜】

屋根スラブから最下層のスラブまで曲面の吹抜を設ける
ピロティの植物に陽が当たり、縦・横に風の流れを起こす
自然環境に配慮するものとする

■建築塾に参加して



(株)ごとう計画設計
土持 未聖

“環境”というテーマは意味が広く、自分の案をまとめるまで大変時間がかかりました。地球環境や、教育環境、家庭環境、職場環境、、、いろいろな意味がある中で、思いついたのは自分が飼っている猫に関する“ネコ環境”でした。

人間にとって、猫にとって両方にとっての幸せな環境とはなにか、イメージではなんとなく思いつくものの、建築として形にすることができず悩んでいたときに「思ったこと、感じたことをまず言葉にしてみてください。」福田さんからのアドバイスがとても自分自身に響きました。それは、普段から事務所で言われていたことで、自分が苦手と感じていたことだったので、意識して考えることができていなかったことに気が付きました。語彙力だけでなく、考えるということが曖昧で他人の読解力に甘えているということにはっきり気付かされた瞬間でした。

課題を通して同じ塾生と話をしたり、一緒に作業をしていく中で、こんな考え方もあるんだな、と今後の自分の考え方にプラスになるのではないかと思い、模型作りや、プレゼンの作り方、コンセプトや内容など様々で色の分け方、表現の仕方など参考になるものが多くとても勉強になりました。また、普段の仕事内容や仕事をする上で自分の気をつけていることなど課題以外の面でも同世代の人たちと話すことができてとても参考になりました。最終発表では、少し後悔の残るものになりましたが、講師の先生方のアドバイスなどを受け、宮崎に戻ってからなんとか最後まで形にすることができました。まだまだ改善点はありますが3日間を通して学んだことを今後の自分の仕事に生かしていきたいです。特に”感じたこと、思ったことを言葉にすること”を意識して頑張りたいと思います。今回このような貴重な機会をいただき、ありがとうございました。



株式会社 INTERMEDIA
橋本 悠希

今回、福岡市中央区にある今泉が敷地でした。私は大学時代の4年間福岡に住んでおり、博多や天神などに買い物や飲みに行くなど多く足を運びました。しかし今泉には1度だけしか行った事はありませんでした。今泉を歩いてみるとそこにはマンションや一戸建てが多く見受けられ、その近くには飲食店や居酒屋、雑貨屋など色々なお店がありました。そんな中でも私が1番魅力に感じたのは細い路地でした。路地がある事で建物の距離も近くなりますが人と人の距離も自然と近くなると思い、天神と薬院の中間点にある今泉を通過点としてではなく魅力に感じた路地を取り込む事で人が止まれる場所を考えました。新しくできる建築を使う人だけではなくその地に住んでいる人や通勤などで使う人、沢山の人が使える場所を少しでも提供できる場を作る事が必要だと思います。

また、今回の課題を地元である長崎に置き換えて考えました。出身である長崎は新幹線の開通が迫り特に駅周辺では県庁や警察署が別の場所から移転をし、マンションやホテルが多く建設されています。整備が進むことで坂の上に住んでいる方たちの生活が便利になり駅周辺にも人が沢山人が増えると思います。一方で県庁や警察署の移転後まちの活気が減ってしまった場所、マンションができた事によって坂の上にある家が空家になってしまう、など環境が変わろうとしています。良くなる環境があればその逆も生まれると思います。その時に今までの環境をどの様に生かすのか。新しい物だけに目がいくため、これまでの環境にどの様に目を向けてもらう事ができるのか。時代の変化に建築はどの様に関わる事ができるのか沢山の視点で見ることが出来ます。建築と環境の関係性を設計を通して考えていきたいと思います。



日本文理大学
山内将暉

今回、建築塾の3日間を通して様々なことを体験させて頂きました。大分では経験することのないとても良い内容だったと思います。そして、私にとってかけがえのない財産になると思いました。3日間の建築塾では福岡のこれから、アジア建築、参加した塾生との交流と、とても内容の濃い3日間だったと思います。

建築塾初日では松岡さんの講演会が行われ、プロフィールや活動内容など様々なことをお話されました。特に天神を中心とした天神ビックバンのお話ではとても興味深く、関心を持ちました。この先起こるであろうことや、その効果、そして建築の可能性が天神ビックバンに対してどのように鼓動するのかを伺い、都市的スケールでの建築のあり方に可能性を感じ圧倒されました。それらのことを活かし、建築塾での課題は天神にビックバンの成長と建築を私なりに表現しました。

2日目では建築家の末光弘和さんを中心としたディスカッション形式の交流はとても面白かったです。特にこれからはヨーロッパの建築を模倣した建築ではなく、アジア建築に目を向けるという部分が私の中で衝撃が走りしました。大学の講義ではヨーロッパ建築を取り上げることが多く、海外旅行でもイタリア建築を見に行きました。しかし、アジア建築の自然と向き合った建築はジェフリーパワを例に上げ、これからの建築の可能性に気づかされました。この経験は私の卒業設計に大きく影響すると思います。

そして参加した塾生との交流はとてもいい刺激になりました。同学年の学生や社会人など自分の考えになかった設計を行っており自分の未熟さを痛感しました。また、建築塾が終わったあと、偶然の出会いがあり建築塾を通して様々な交流ができたことを嬉しく思いました。

このような経験をさせて頂き心から感謝します。ありがとうございました。



トラス・アーキテクト(株)
丸野大樹

今回九州建築塾に参加し、自分の考えの大きな分岐点となりました。普段の設計業務では、確認申請や図面を書くことを主にしていますがプランニングなど0から1を生む事がまだ少ないです。キャリアや技量の問題もありますが、1を生み出す事、自分の考えたものやコンセプトを形に落とし込むことに、苦手意識のようなものがありました。学生時代も大学生などと比べ設計課題なども少なく自分の建築論のようなものもなかったため、建築塾で他の方のコンセプトを聞いて劣等感を感じる事が多かったです。

今回建築塾に参加して同年代の建築設計の方々と知り合う事ができ色々な方の考えを聞くことが出来ました。鹿児島県で建築設計をする同年代の方と知り合う機会が少なく自分にとっては貴重な経験でした。2日目の夜に塾生の方と話し合う時間で悩みを話し合う時があり自分と同じような悩みを持つ方が多く、解決するためのいいアドバイスを頂く事が出来ました。

自分の建築家としての将来像としては、松岡恭子さんがおっしゃっていた「建築と無縁で生きている人はいない」という言葉が深く残っています。建築の仕事をしていると無意識のうちに建築が生活の一部になっていますが、一般の方々は建築があって当たり前のものになっています。だからこそ、当たり前になっているものから与える建築の影響は大きいと思います。JIAの方々が熊本県の震災時に現地へ行き、活動されたことなどを聞き建築家として自分も建築家として将来このように貢献していきたいと思いました。また、鹿児島県で設計事務所を構え建築の可能性を広めることができる建築家になりたいです。今回の建築塾の経験をバネにこれから頑張りたいです。ありがとうございます。



和田設計
藤井捷伍

今回建築塾に参加するきっかけとなったのは社長から参加してみてもどうかとお話を頂いたこと、また、自分自身、人前で喋るのは苦手で考えを素早くまとめることもあまり得意ではないほうでしたので、建築塾を機に、考えて人前で堂々と喋れる練習をして少しでも前に進めればと思い参加することにしました。

私は和田設計に入社して一年目で先輩方のサポートを中心に動いています。実施設計の図面を一部描いたり、申請書類を作ったりといった実務をしています。建築塾の課題は、条件があり、敷地の設定があり、しかしそれ以外は自由という建築コンペのようで自分の考えるものをプレゼンテーションする内容でした。私は専門学校に通っていたころに何度かコンペには参加していますが、悔しいことにあまりうまくいったことがありませんでした。しかし今よりはずっと自由に建築を考えとらえていたと思います。

この建築塾で学んだことが二つあります。一つは、建築の自由度です。入社して実務や構造、設備、積算、ディテールなどの現実な話を聞いていると基本計画であるゾーニングやエスキスを進めていく過程で「どうやって建てるのだろう？」や「本当にこれで建物は立つのだろうか？強度は？防水は？」というようなことを考えてしまい、最終的に安全な箱型に落ち着いてしまいます。今回もそのような考えを出してしまいあまり納得のいかない建物を計画してしまいました。ここが自分の良くないことで建築塾を通して講師の先生方に注意を受けたことです。そして今自分に圧倒的に足りないものは知識と経験だと強く思いました。また、建築基準法をかわして自分の作りたい形に出来るように勉強にこれから勉強に励みたいと思います。

二つ目は、様々な考え方捉え方があるということに気づかされました。建築塾で行った中間発表、建築家の末光さんを交えたディスカッションで、話をしていくと今回のテーマである環境というところで緑化を取り入れるなど似ている部分はありましたが、どのアイデアもがどうやって公園と連携をとることができるのか、この敷地にどのような建物が求められるのかとしっかりと考えられていて凄いと思いました。と同時に自分のアイデアを客観的な視点から見直すこともできたと思います。そして、会社を持ち帰って先輩方や上司の方にプレゼンをしてかなりの指摘を受けましたが学ぶことはたくさんありました。そもそも公園とは？天神ビッグバンで高層ビルが立ち並んでも都市計画で指定されている公園、広場は無くならない。その建物に立ち寄って得られるメリットは？など、力不足を改めて実感しました。

今回建築塾に参加できてとてもいい経験をする事ができたと思います。これから仕事で基本計画やプロポーザルなどに参加することになると思います。その場面でいい活躍と結果を出せるようにこれから色々な建築物を見て学び、基礎的な部分をもっと勉強して知識を身に付け日々精進していきたいと思います。



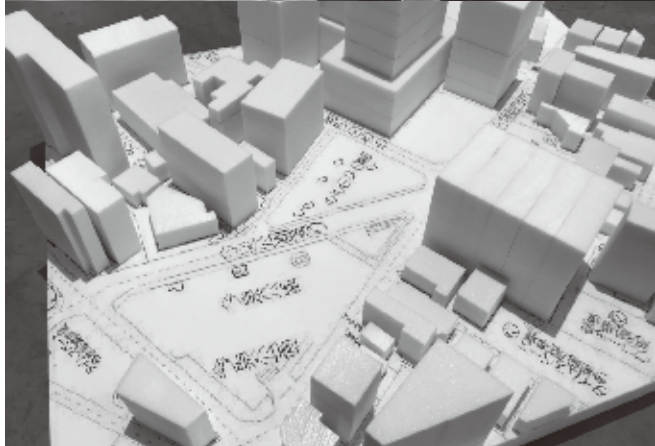
長崎総合科学大学 工学部
工学科建築学コース 三年
大原正義

今回の九州建築塾の参加のお話が来た際、最初は参加希望を出すことをためらいました。その時に昨年開催された建築塾の報告書を見させて頂き、参加者の多くが設計事務所 で実務経験を積んでいらっしゃる方たちばかりで、作品もとても熟考されたものでした。このような集まりに自分のような建築に触れ始めて三年も経たないようなのが参加していいのかというのが正直な思いでした。

二泊三日の作業中は辛いことばかりでしたが、食事会などは塾生の方々と、参加されていた建築家の方々とお話をさせて頂きとても有意義で貴重な時間を過ごしました。作業に関しては事前の調べ作業から始まり、敷地調査を挟み計画建物を考え込んでいきました。今回の建築塾で建物を考えるうえで敷地調査と中間発表を終えてのフィードバックが改めて大切なことだと思いました。敷地調査は、その場所の雰囲気などそこにいる人、交通量などたくさんの情報を実際に目で見て肌で感じる事ができ、私の計画した建物も敷地調査前と後とは全く違うものになり、敷地調査で感じたことを CAD で形にして中間発表に臨みました。

発表が終わる講師の方々のフィードバックでそれまで自分が見えていなかった問題点がたくさん見えてきて、今回の課題に対する意欲が急激に上がりました。その夜は一秒も無駄にできないとの思いで作業に取りかかり、ほぼ徹夜で取り組みすごきつかったです。中間発表で指摘された点と新たに芽生えた自分の考えを計画に詰めました。考える時間も訂正する時間も十分に無かったので、その時に考えたものを正直に形にして最終発表に臨みました。発表後の好評では良い点をたくさん褒めて頂き、自分に自信がつかしました。しかし、他の塾生の方々の発表を見ていての感想として自分と比べると課題に対しての意欲求めている量など段違いですごく発表ばかりでした。

いままで同年代の建築に携わる他県の方との交流がほとんど無かったため、自分の経験の少なさに気づく機会になりました。現在就活中で、色々迷っているところではありますが、設計事務所への就職もこの機会に真剣に考えてみようと思いました。塾生になれてすごくよかったです。ありがとうございました。



◇謝辞

福岡地域会副会長 村上明生（福岡地域会）

1月31日～2月2日の2泊3日で、第21回建築塾を開催しました。今回の建築塾では「環境をつくる」をテーマに、末光弘和氏（株式会社 suep）をお招きして総勢15名の塾生のもと行われました。環境というキーワードは、建築を行う中で、最も重要なテーマの一つとなっており、末光氏は近年環境建築への取り組みを福岡と東京を拠点に取り組んでいます。塾生はJIA会員事務所の若いスタッフ、建築系大学の学生を中心に3名の外国人を含む多種多様な人材で、参加者同士の交流も深く行われました。

初日は福岡地域会の例会と共催で、松岡恭子氏（スピングラスアーキテクト）による天神ビッグバンの話や、最近の建築について語っていただき、今回の敷地周辺の状況を含め良いレクチャーになったのではないかと思います。

2日目は朝から敷地調査、末光氏を囲んでの座談会、計画の発表、夜には九州支部地域交流会と合同で懇親会を行い、参加者にもJIAとはどのような団体であるかを感じてもらったと思います。

3日目は前日から徹夜作業をする塾生もいる中、最後のプレゼンテーションを行い、講師が講評を行う形で実施されました。この講評には九州支部の地域交流会に参加したJIA会員の方々も20名程度参加頂き、大いに議論に参加いただく事となり、一つの空間を共有することができたのではないかと思います。

今回担当した福岡地域会の準備委員会では、とにかく今現在建築実務の最前線にあるJIA会員と塾生の距離を縮め、地元建築業界の発展に寄与できるプログラムを考えました。今回の建築塾が「地域の担い手を地域で育てる」活動の一助の機会となったのではないかと感じています。

最後になりましたが、会員の皆様から多大なるご協力を頂きました事、この場をお借りして御礼申し上げます。

